

黄金行進曲(月琴雜曲自在)

甲斐朝花 31-206301

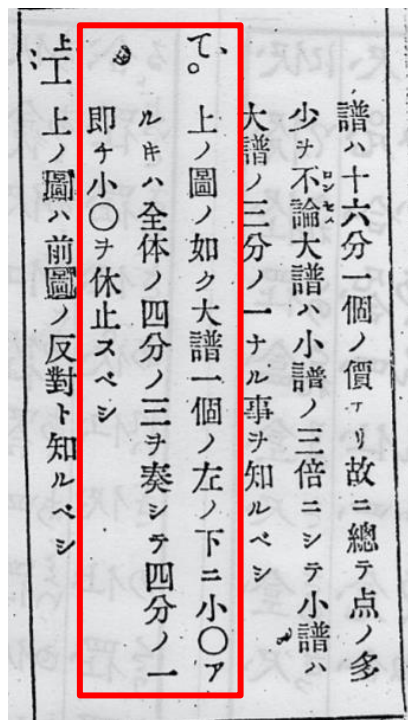
5
9
13
17
22
26
30
34
38
42
46

※1
※2

こんごせきもみがかずバ
たまのひかりハハざらん
ひともまなびてのちにこそ
まことといハあらハるれ
とけいのはりのたゆまなく
めぐるがごときときのまの
ひかげおしみてはげみなば
いかなるわざかならざらむ

※1

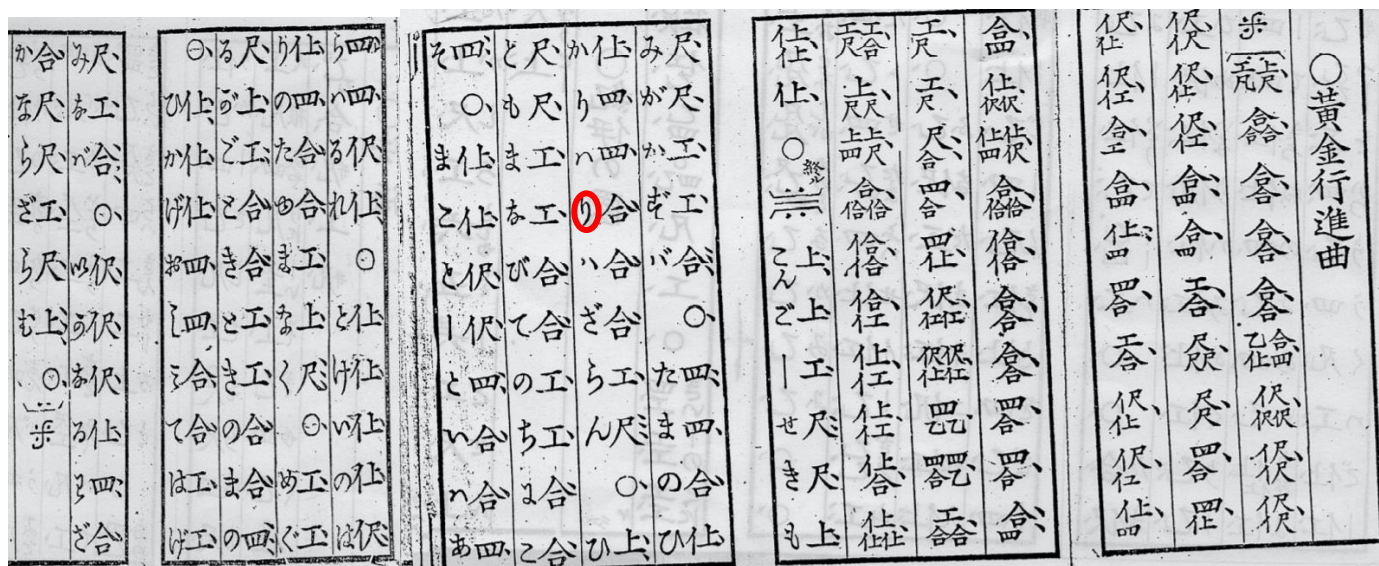
工尺譜通りであれば、この音は本来、一拍分の長さであり、続く休符の長さも一拍分である。曲集の冒頭に記された説明によれば、「音を示す文字の左下に、小さな○が示されている場合、音符は三拍分、休符は一拍分を示す」と書かれているが、ここで記されているのは、文字の真下に書かれた大きな○であった。しかし、五線譜に書き換える上で、今回は一小節の四拍分を満たすため、この説明書きに従い、音符を三拍分、休符を一拍分とした。(又は、この小節のみを二分の二拍子で表記するという方法も可能であったろう)



「月琴雑曲自在」より

※2

工尺譜の歌詞には、「り」と書かれているが、この曲の本来の歌詞では、「そ」である。これは、おそらく、「ソ」を「り」と誤って記したものと推測できる。



「黄金行進曲」の工尺譜